

# たんぽぽ教室だより

令和3年9月号



楽しかったね。夏休み



42日間の長い夏休みが終わりました。制約の多い日々でしたが、それなりの思い出はできたのでしょうか。緊急事態宣言中の登校開始、さらに気を引き締めて臨みたいです。

さて、先日の個人面談、お世話になりました。普段顔を合わせることでできない石橋小の通級児の保護者の方々とお話し、家庭での様子を知ることができました。また、お子さんに対する保護者の方の思いを確認しました。

9月は前期の後半戦。まだまだ暑い日が続きますが、学習してきたことを振り返り、自分自身の成長が実感できるようにしていきたいと考えています。

## 9月の行事予定

- |         |              |
|---------|--------------|
| 9月1日(水) | 全校集会         |
| 15日(水)  | 研究授業のため5校時休室 |
| 22日(水)  | 研究授業のため5校時休室 |
| 30日(木)  | クラブ          |





## たんぽぽの子どもたち



発音の練習に通っているBくん。「舌を前に出して、右、左、上、下」の声かけに思うように舌が動かず、舌を持って自分でひっぱっています。「ホットケーキみたいにふんわり平らな舌にしようね」でも力が入ってしまい、固いおせんべいのようになっていました。

発音の改善のために通っているお子さんは、舌の形や動きに何らかの課題があることがあります。発音のための「お口の体操」は、舌や口の周りを鍛えるものです。毎回練習しているうちに、舌の筋力がアップしたり、舌の力が抜けた状態が保てるようになっていきます。苦手なことも楽しく頑張れるように、お菓子やおもちゃを使ってみます。

Bくんは、早く直したくて家でも練習をする頑張り屋。その甲斐もあって、今では、「見て。(舌の)お皿に水がたくさん溜まるようになった!」とうれしそうです。発音も少しずつきれいになって、「し」の音が歪まずに出るようになりました。

### きれの子

どんなときにも泣かずに弱音を吐かずに頑張る子をよしとする価値観においては、「体が感じている感情を発する」ということは「わがまま」と認識され、その感情は承認されず、「痛くない」「こわくない」「大丈夫!」という声かけにより、生体防御反応が否定されるということがよく起こります。その結果、親の前では「よい子」なのに、学校で激しくきれるという2面性を特徴とする状態像を示す子どもたちが多くいます。親の前の姿と、学校での様子があまりにも別人であるかのように異なるので、学校は親の話を信じられず、親は学校の話信じないということが生じ、トラブルになることが多い典型的な姿です。(中略)

感情制御の脳の機能は、大人との安心できる関係の中で育つものです。ネガティブな部分も含めたありのままの自分をまるごと承認されたときに、子どもは「安心感」を獲得するのです。「よい子」でないと愛せないという大人の在り方が、きれの子を生み出しています。だから今、大人を満足させる「よい子」でなくても、愛することができるかどうかということが、大人に突きつけられているのです。

月刊学校教育相談より 東京学芸大学 大河原美以

